

生成AIの活用に関するガイドライン

【学生用】

梅花女子大学
学長 河村 圭子

2024年6月12日

はじめに

- ・ ChatGPTなど、**生成AI**の活用が急速に身近になってきています。
- ・ AIリテラシーを身につけ、学修や研究において生成AIを適切かつ積極的に活用しましょう。
- ・ 生成AIは学びに大きく役立てられる可能性があります、同時に様々な問題もあり、使い方をともに学んでいく必要があります。
- ・ きわめて急速に身近になっているため、大学での教育・研究活動における**生成AIの活用の方針(ガイドライン)**を定めます。

このガイドラインは、本学学生が生成AIに関する基本事項を共有するためのものです。

活用が想定される場面

活用場面

生成AIは、情報の探索や要約等に有効活用できます。

例えば

- 授業の予習や復習に利用することによって、授業内容をより深く理解する
 - グループワークや課題において、自分達が出した意見を他の視点から確認する
- といった活用方法が想定されます。

留意点

授業や課題には、学生自身が主体的に取り組むことが前提です。

生成AIの出力をそのまま使用して、課題等の成果物とすることは認められません。

実際に使用する際には、個別に担当教員の指示に従ってください。

注意すべき問題点

情報の妥当性と再現性の低さ

- ・生成AIの出力には、**明らかな間違い**や**フェイク情報**、**偏見が根拠**になっている可能性があります。したがって情報の信頼性を確認する必要があります。
- ・出力される結果は**再現性が低く**、常に変化します。したがって、再現できない場合を想定する必要があります。

留意点

- ・生成AIは、原作者の許諾を得ていないデータも収集している場合があります。そのため、出力された情報は、**著作権や肖像権などの知的財産権を侵害**するおそれがあります。
- ・生成AIへ入力する指示文もデータとして収集されます。個人情報や機密情報を入力してしまうと、第三者への回答等に出力されるおそれがあります。したがって、**個人情報や機密情報は入力すべきではありません**。また未発表の研究データも機密情報にあたります。

今後の動向に即した対応

- ・生成AIは**発展途上**の技術であり、その可能性と課題において不透明な部分が多く残されています。
- ・この技術を社会に取り入れるための制度の整備も、**これからの議論**が必要とされています。
- ・このガイドラインも、今後の動向に即して**適宜見直し**を行っていきます。